

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

上場企業のITリーダーへの意識調査レポート マルチクラウドに関する動向調査 (第4回)

2021年2月度版

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

ITサービス事業グループ
ITサービス企画統括部 マーケティング課

エグゼクティブサマリー



大手IT専門調査会社の予測では、2019年に63.7%だったクラウドへのIT予算配分が、2021年には74.7%になると予測されています。これに伴い、複数のパブリッククラウドをオンプレミスと組合わせた「マルチクラウド」も増えていくと考えられます。

そこで弊社では、2021年1月に「マルチクラウド意識調査」を実施しました。これまでも2019年6月、2020年2月、8月に同様の調査を行っており、今回で4回目の調査となります。調査対象は上場企業 情報システム部門の管理職や主任、リーダー以上であり、サンプル数は379名。調査方法としては、インターネット経由でアンケートに回答してもらうという方法を採用しました。

4回目となる本調査から見られる傾向は、以下の通りです。

- 4割を超える企業が「既に複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携して（マルチクラウド）運用」と回答。本調査の初回（2019年6月）以降、ほぼ同率で推移。
- 業種別ではIT・金融でマルチクラウドの比率が高く、流通・製造業では比較的低い。また従業員数別では、従業員数が多いほどマルチクラウド化が進んでいる。
- 使用しているクラウドサービスとしては、AWSとMicrosoft Azureが突出。第3位以下を3倍以上も引き離す。検討中のクラウドサービスも同様の傾向。なおこれも過去

3回で大きな変化は見られない。

- マルチクラウド運用で求められる機能としては、「セキュリティおよびID管理」、「ガバナンスとポリシー管理」、「コストの可視化」と最適化がトップ3に。「統制」面でのニーズが高いことが浮き彫りに。その一方でマルチクラウド運用の課題についても、同様の結果となった。
- 「社内他部署からのクラウド基盤の利用に関する相談における、情報システム部門の課題で優先度の高いものはなにか？」という設問では、「セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」がトップになり、「既存システムの改修を求められる」「クラウド人材不足」がこれに続いた。

以上の結果から、上場企業では2019年までにマルチクラウド化はある程度進んでおり、この1年半は大きな変化が見られないことがわかります。その一方で、マルチクラウド化が事業部門主導で進んでいるケースが多く、この状況に対して情報システム部門が統制面での危機感を感じていること、クラウドに対応できる人材が不十分であることなども感じられます。

企業がIT基盤のマルチクラウド化に向けて適正な判断を行うための参考となるべく、今後も弊社では、年2回同様の調査を実施し、上場企業のIT活用状況を発信してまいります。

2021年3月 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社



■ 調査目的

- 2019年6月、2020年2月、2020年8月に続く第4回目の定点調査、時系列比較
- 上場企業における「クラウド環境」への取り組み状況を確認する
- クラウドへの移行対象、問題点、懸念点を把握する

■ 調査内容

- ・ クラウド基盤（IaaSとPaaS）への取り組み状況への取り組み状況（単一回答）
- ・ 現在利用を検討しているクラウド基盤（複数回答）
- ・ クラウド基盤への移行対象となるシステム（3つまで）
- ・ マルチクラウド運用の場合に求められる優先度の高い機能（3つまで）
- ・ 「使用するにはまだ課題がある」と思われる項目（単一回答）
- ・ クラウド利用を阻害する要因（複数回答）
- ・ 社内他部署からのクラウド基盤の利用に関する相談における、情報システム部門の課題で優先度の高いもの（3つまで）

■ 調査対象者

- ▶ サンプル数 379名
- ▶ 対象者 上場企業（東証、大証、名証、JASDAQ、マザーズなど）にお勤めになっている、情報システム部門（およびそのシステム選定に関与する）の管理職・主任・リーダー以上が対象。
※ 広告代理店や調査会社関係者は省く

■ 調査元

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

- ▶ 調査方法： パネルを利用したインターネット調査
- ▶ 調査実施日： 2021年1月28日（木）～1月31日（日）

1

調査項目 回答者属性



調査項目 (1/2)



Q1. クラウド基盤(IaaSとPaaS)への取り組み状況をお知らせください。(単一回答)

1. パブリッククラウド基盤を本格的に利用を検討中
(テスト・開発環境だけでなく本番環境も含んだ利用検討)
2. 既に単一のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携して
(ハイブリッドクラウド) 運用している
3. 既に複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携して
(マルチクラウド) 運用している
4. パブリッククラウド基盤の利用は検討していない

Q2. クラウド基盤への移行対象となるシステムは次のどれでしょうか? 優先度の高いものの上位3位を教えてください。(複数回答)

1. システム開発、WEBサイト構築 | 2. データ分析 | 3. シミュレーション
4. 生産管理、物流管理、店舗管理 | 5. 購買 | 6. 受注販売
7. 課金・決済システム | 8. 給与、財務会計、人事 | 9. デスクトップ環境
10. その他

Q3. 複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(マルチクラウド)して運用した場合に求められる機能をお選びください。優先度の高いものの上位3位を教えてください。(複数回答)

1. ガバナンスとポリシー管理 | 2. サービス・リクエスト管理
3. プロビジョニング、自動化、オーケストレーション
4. モニタリング、メータリング | 5. マルチクラウド一元サポート
6. クラウド移行と災害対策 | 7. コストの可視化と最適化
8. キャパシティとリソース最適化 | 9. セキュリティおよびID管理
10. サービス・レベル管理 | 11. 構成管理の自動化
12. 複数クラウド環境の統合的な管理/可視化 | 13. その他

Q4. Q3で回答した選択肢のうち「使用するにはまだ課題がある」と最も思われる項目をお選びください。(単一回答)

1. ガバナンスとポリシー管理 | 2. サービス・リクエスト管理
3. プロビジョニング、自動化、オーケストレーション
4. モニタリング、メータリング | 5. マルチクラウド一元サポート
6. クラウド移行と災害対策 | 7. コストの可視化と最適化
8. キャパシティとリソース最適化 | 9. セキュリティおよびID管理
10. サービス・レベル管理 | 11. 構成管理の自動化
12. 複数クラウド環境の統合的な管理/可視化
13. その他 | 14. 課題があると思う項目はない

調査項目 (2/2)



Q5.パブリッククラウド利用を阻害する要因はなんですか？（複数回答）

- 1.セキュリティに不安がある（会社のポリシーに反する）
- 2.オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる（費用対効果に疑問がある）
- 3.アプリケーションの改修に対する影響が不透明
- 4.移行の為に負荷が大きい（データ量やデータ移行の方法が困難など）
- 5.クラウド運用のための人材不足（人材へのトレーニングコストへの課題含む）
- 6.会社的にクラウドが信用されていない
- 7.パフォーマンス・性能の劣化
- 8.サービスの利便性や使い勝手
- 9.サービス仕様・メニューに対する自由度（自社仕様へのカスタマイズ）
- 10.使用するサーバー資源の柔軟な変更・削除
- 11.導入・移行スケジュールが要件と合致しない
- 12.専任のサポート体制・要員が提供されない
- 13.クラウド環境ごとに異なる運用管理の対応
- 14.その他
- 15.わからない

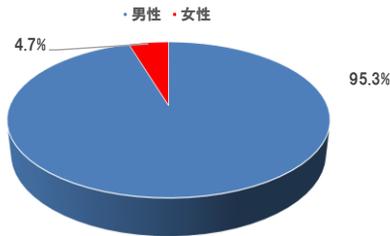
Q6.社内他部署からのクラウド基盤の利用に関する相談における、情報システム部門の課題で優先度の高いものの上位3位を教えてください。（複数回答）

- 1.社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない
- 2.社内他部署と情報システム部の役割分担が明確でない
- 3.社内他部署のクラウド利用コストの管理が困難である
- 4.社内他部署とクラウド利用コストの予算感が合わない
- 5.既存システムとクラウド基盤の連携のため、既存システムの改修を求められる
- 6.情報システム部門がクラウド人員不足で対応しきれない
- 7.情報システム部門がクラウドスキル不足で対応しきれない
- 8.社内他部署がクラウド特有の制約を理解していない
- 9.社内他部署のクラウド利用実態を把握できてない
- 10.社内他部署の求めるスピードでクラウド基盤の提供ができない
- 11.社内他部署からのクラウド基盤の利用に関する相談のタイミングが遅い
- 12.その他

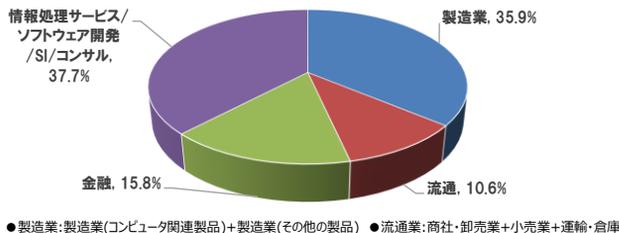
回答者属性



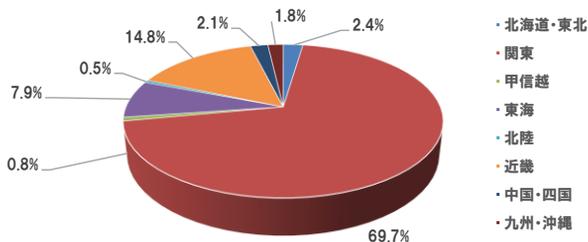
あなたの性別をお知らせください。(単一回答)



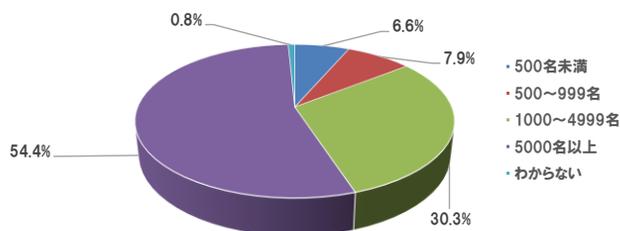
あなたがお勤めの業種をお聞かせください。(単一回答) →グループ化



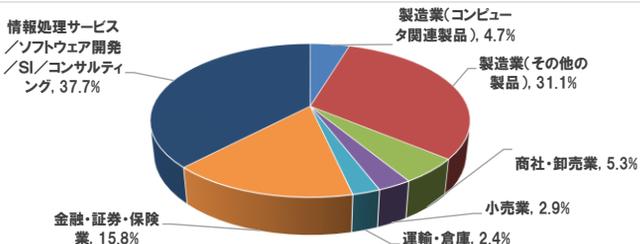
あなたの勤務先(都道府県)をお知らせください。(単一回答)



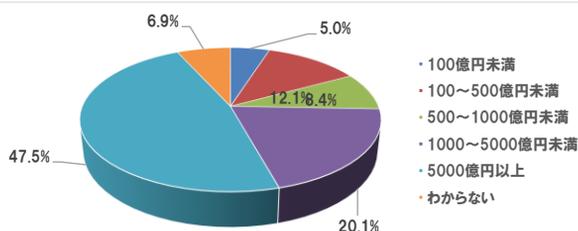
あなたの勤務先の従業員規模を教えてください。(単一回答)



あなたがお勤めの業種をお聞かせください。(単一回答)



あなたの勤務先の売上高を教えてください。(単一回答)



2

調査結果



クラウド基盤（IaaSとPaaS）への取り組み状況

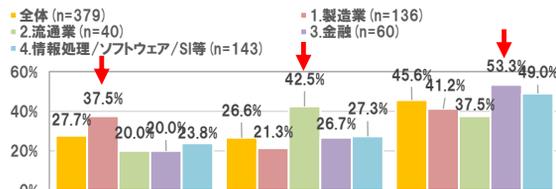


Q1の調査結果サマリー

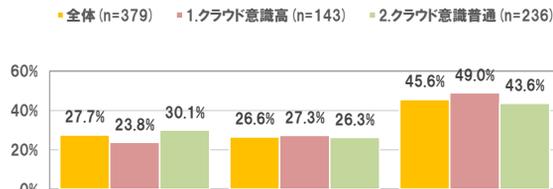
- ❖「既に複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(マルチクラウド)して運用」が最も多く5割弱(45.6%)。
- ❖業種別では、「マルチクラウド運用」は「金融業」、「ハイブリッドクラウド運用」は「流通業」、「検討中」は「製造業」が最も多い。
- ❖クラウド意識が高い企業は、ほぼ半数がマルチクラウド運用。
- ❖従業員数が増加するにつれて「マルチクラウド運用」が増加、「ハイブリッドクラウド運用」は減少。
- ❖売上高が増加するほど「ハイブリッドクラウド運用」は減少。

- ・全体では「既に複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(マルチクラウド)して運用している」が最も多く45.6%。「パブリッククラウド基盤を本格的に利用を検討中」27.7%、「既に単一のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(ハイブリッドクラウド)して運用している」26.6%。
- ・業種別では、「マルチクラウド運用」が最も高いのは「金融業」の53.3%。「ハイブリッドクラウド運用」が最も高いのは「流通業」の42.5%。「パブリッククラウド基盤を本格的に利用を検討中」は「製造業」が最も高く37.5%。
- ・「マルチクラウド運用」は、「クラウド意識の高い企業群」が「クラウド意識が平均的な企業群」を約5ポイント上回る。
- ・従業員数が増加するにつれて「マルチクラウド運用」が増加。売上高が増加するほど「ハイブリッドクラウド運用」は減少。

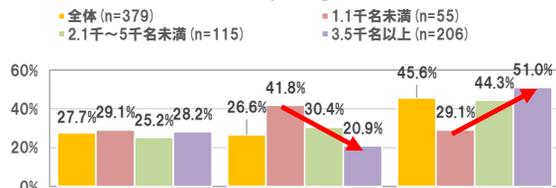
【業種】



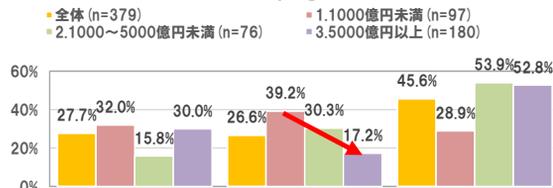
【クラウド意識】



【従業員数】



【年商】



クラウド基盤 (IaaS) への取り組み状況

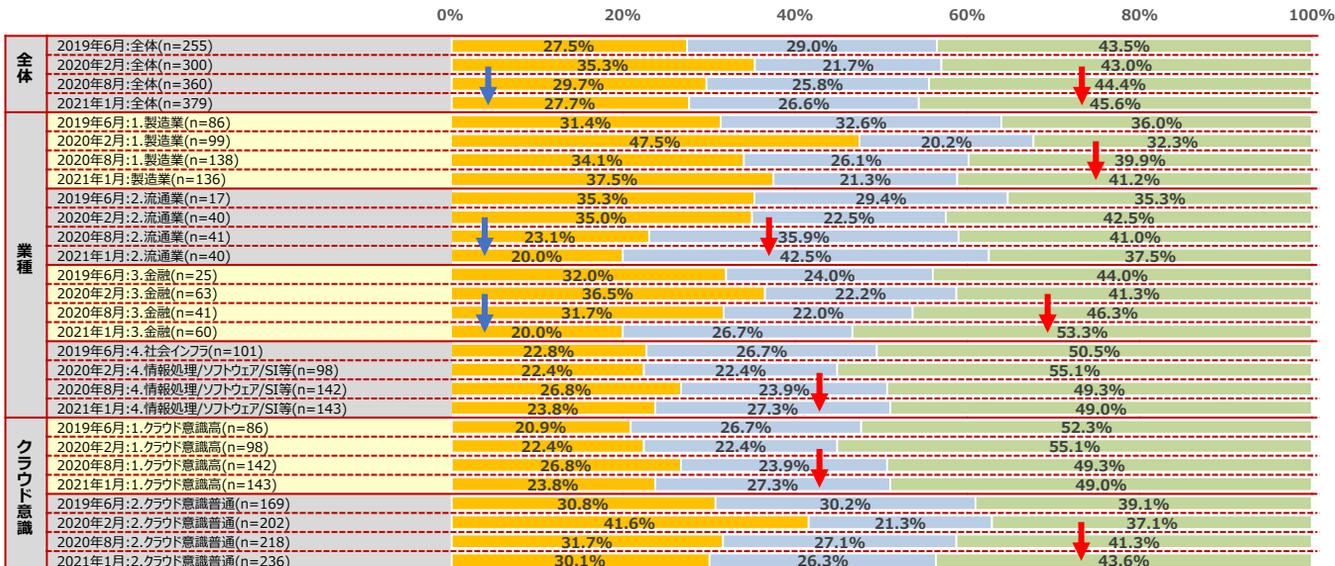
※時系列比較



Q1の調査結果サマリー

- ◆2019年6月以降、「マルチクラウド運用」は微増傾向で推移。「パブリッククラウド基盤を本格的に利用を検討中」は2020年2月調査から減少傾向が続く。
- ◆業種別では、「製造業」と「金融業」において「マルチクラウド運用」が、「流通業」と「情報処理/ソフトウェア/SI等」は「ハイブリッドクラウド運用」が増加傾向。一方で、「流通業」と「金融業」では「パブリッククラウド基盤を検討中」が減少。
- ◆クラウド意識別では、「平均的な企業」では「マルチクラウド運用」の増加傾向が続く。「高い企業」では「ハイブリッドクラウド運用」が増加傾向。

- パブリッククラウド基盤を本格的に利用を検討中(テスト・開発環境だけでなく本番環境も含んだ利用検討)
- 既に単一のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(ハイブリッドクラウド)して運用している
- 既に複数のパブリッククラウド基盤とオンプレミスを連携(マルチクラウド)して運用している



※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者、「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計
 ※N≦25の項目は参考値

クラウド基盤への移行対象となるシステム



Q2の調査結果サマリー

- ◆クラウド基盤への移行対象となるシステムは、「システム開発・Webサイト構築」がトップ。次いで「データ分析」、「給与、財務会計、人事」、「デスクトップ環境」、「生産・物流・店舗管理」。
- ◆業種別では、すべての業種で「システム開発・Webサイト構築」がトップ、次いで「データ分析」。3位以下は業種によりニーズが異なる。
- ◆クラウド意識別のトップ5項目には、意識平均企業は「デスクトップ環境」に代わり「シミュレーション」が入る。
- ◆情報システム動向では、「システム開発・Webサイト構築」がトップ、次いで「データ分析」、「給与、財務会計、人事」。

- ・クラウド基盤への移行対象となるシステムのトップは「システム開発、Webサイト構築」が最も高く63.9%。次いで「データ分析」43.3%、「給与、財務会計、人事」26.4%、「生産管理、物流管理、店舗管理」20.3%。
- ・業種別では、すべての業種で「システム開発、Webサイト構築」がトップ、次いで「データ分析」。第三位に「製造業」は「生産管理、物流管理、店舗管理」、「流通業」と「情報処理/ソフトウェア/SI等」は「給与、財務会計、人事」、「金融業」は「デスクトップ環境」。
- ・クラウド意識別に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ分析」、「給与、財務会計、人事」。
- ・情報システム動向に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ分析」、「給与、財務会計、人事」。「パブリッククラウド基盤検討企業」は「シミュレーション」に対するニーズも高い。

	全体(n=379)		業種				クラウド意識							
			1.製造業(n=136)		2.流通業(n=40)		3.金融(n=60)		4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)		1.クラウド意識高(n=143)		2.クラウド意識普通(n=236)	
1位	システム開発、WEBサイト構築	63.9%	システム開発、WEBサイト構築	59.6%	システム開発、WEBサイト構築	55.0%	システム開発、WEBサイト構築	73.3%	システム開発、WEBサイト構築	66.4%	システム開発、WEBサイト構築	66.4%	システム開発、WEBサイト構築	62.3%
2位	データ分析	43.3%	データ分析	44.9%	データ分析	42.5%	データ分析	50.0%	データ分析	39.2%	データ分析	39.2%	データ分析	45.8%
3位	給与、財務会計、人事	26.4%	生産・物流・店舗管理	27.2%	給与、財務会計、人事	35.0%	デスクトップ環境	33.3%	給与、財務会計、人事	30.1%	給与、財務会計、人事	30.1%	給与、財務会計、人事	24.2%
4位	デスクトップ環境	21.9%	給与、財務会計、人事	24.3%	生産・物流・店舗管理	25.0%	シミュレーション	18.3%	デスクトップ環境	25.2%	デスクトップ環境	25.2%	生産・物流・店舗管理	22.9%
5位	生産・物流・店舗管理	20.3%	シミュレーション	22.1%	受注販売	22.5%	給与、財務会計、人事	16.7%	生産・物流・店舗管理	16.1%	生産・物流・店舗管理	16.1%	シミュレーション	20.8%

	全体(n=379)		情報システム動向			
			1.本格的に利用を検討中(n=105)	2.ハイブリッドクラウド運用(n=101)	3.マルチクラウド運用(n=173)	
1位	システム開発、WEBサイト構築	63.9%	システム開発、WEBサイト構築	64.8%	システム開発、WEBサイト構築	65.3%
2位	データ分析	43.3%	データ分析	36.2%	データ分析	46.8%
3位	給与、財務会計、人事	26.4%	給与、財務会計、人事	23.8%	給与、財務会計、人事	27.7%
4位	デスクトップ環境	21.9%	シミュレーション	23.8%	生産・物流・店舗管理	23.7%
5位	生産・物流・店舗管理	20.3%	生産・物流・店舗管理/デスクトップ環境	21.0%	デスクトップ環境	18.5%

※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者、「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計

クラウド基盤への移行対象となるシステム



Q2の調査結果サマリー

- ◆従業員数数に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ開発」。「1千～5千名未満」の企業では、「デスクトップ環境」に代わり「シミュレーション」がトップ5入り。
- ◆売上高に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ開発」。「1000～5000億円未満」の企業では、「デスクトップ環境」「生産・物流・店舗管理」に代わり「シミュレーション」と「受注販売」がトップ5入り。

- ・従業員数別では、従業員数に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ開発」。第三位に「1千名未満」の企業は「生産管理、物流管理、店舗管理」と「給与、財務会計、人事」、「1千～5千名未満」の企業は「給与、財務会計、人事」、「5千名以上」の企業は「デスクトップ環境」。
- ・売上高別では、売上高に関わらず、「システム開発、Webサイト構築」がトップ。次いで「データ開発」。第三位に「1000億円未満」の企業と「1000～5000億円未満」の企業は、「給与、財務会計、人事」、「5000億円以上」の企業は、「デスクトップ環境」。

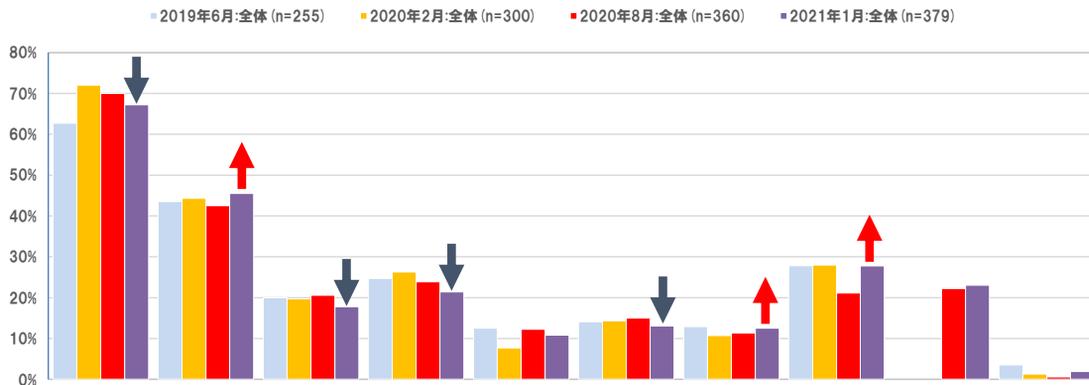
	全体(n=379)		従業員数						年商					
			1.1千名未満(n=55)		2.1千～5千名未満(n=115)		3.5千名以上(n=206)		1.1000億円未満(n=97)		2.1000～5000億円未満(n=76)		3.5000億円以上(n=180)	
1位	システム開発、WEBサイト構築	63.9%	システム開発、WEBサイト構築	65.5%	システム開発、WEBサイト構築	65.2%	システム開発、WEBサイト構築	63.1%	システム開発、WEBサイト構築	70.1%	システム開発、WEBサイト構築	65.8%	システム開発、WEBサイト構築	60.6%
2位	データ分析	43.3%	データ分析	38.2%	データ分析	41.7%	データ分析	46.1%	データ分析	44.3%	データ分析	40.8%	データ分析	45.0%
3位	給与、財務会計、人事	26.4%	給与、財務会計、人事	27.3%	給与、財務会計、人事	30.4%	デスクトップ環境	26.2%	給与、財務会計、人事	26.8%	給与、財務会計、人事	36.8%	デスクトップ環境	25.6%
4位	デスクトップ環境	21.9%	生産・物流・店舗管理	27.3%	生産・物流・店舗管理	18.3%	給与、財務会計、人事	23.8%	生産・物流・店舗管理	24.7%	シミュレーション	18.4%	生産・物流・店舗管理	21.1%
5位	生産・物流・店舗管理	20.3%	デスクトップ環境	16.4%	シミュレーション	18.3%	生産・物流・店舗管理	19.9%	デスクトップ環境	17.5%	受注販売	18.4%	給与、財務会計、人事	20.0%

クラウド基盤への移行対象となるシステム ※時系列比較



Q2の調査結果サマリー

- ◆2020年8月と比較すると、「給与、財務会計、人事」が6.7%、「データ分析」が3.1%、「課金・決済システム」が1.1%の増加。「デスクトップ環境」は微増。
- ◆「システム開発、WEBサイト構築」と「シミュレーション」が2.8%、「生産管理、物流管理、店舗管理」が2.5%、「受注販売」が1.9%の減少。



	システム開発、WEBサイト構築	データ分析	シミュレーション	生産・物流・店舗管理	購買	受注販売	課金・決済システム	給与、財務会計、人事	デスクトップ環境	その他
2019年6月:全体 (n=255)	62.7%	43.5%	20.0%	24.7%	12.5%	14.1%	12.9%	27.8%	22.2%	3.5%
2020年2月:全体 (n=300)	72.0%	44.3%	19.7%	26.3%	7.7%	14.3%	10.7%	28.0%	22.2%	1.3%
2020年8月:全体 (n=360)	70.0%	42.5%	20.6%	23.9%	12.2%	15.0%	11.4%	21.1%	22.2%	0.6%
2021年1月:全体 (n=379)	67.2%	45.6%	17.8%	21.4%	10.8%	13.1%	12.5%	27.8%	23.1%	1.9%
増減 (20年8～21年1月)	-2.8%	3.1%	-2.8%	-2.5%	-1.4%	-1.9%	1.1%	6.7%	0.8%	1.4%

マルチクラウド運用の場合に求められる機能



Q3の調査結果サマリー

- ◆「マルチクラウド運用」で求められる機能のトップ3は、「ガバナンスとポリシー管理」と「セキュリティおよびID管理」が同率トップ。次いで、「コストの可視化と最適化」。
- ◆業種別では、「製造業」と「金融業」は「ガバナンスとポリシー管理」、「流通業」は「コストの可視化と最適化」、「情報処理/ソフトウェア/SI等」は「セキュリティおよびID管理」。
- ◆情報システム動向別では、「マルチクラウド運用企業」は「ガバナンスとポリシー管理」と「セキュリティおよびID管理」が同率トップ。

- ・「マルチクラウド運用」に求められる機能のトップ3は、「ガバナンスとポリシー管理」と「セキュリティおよびID管理」が同率の38.3%。次いで「コストの可視化と最適化」の30.1%、「クラウド移行と災害対策」の26.1%、「サービス・リクエスト管理」の23.7%。
- ・業種別では、「製造業」と「金融業」は「ガバナンスとポリシー管理」、「流通業」は「コストの可視化と最適化」、「情報処理/ソフトウェア/SI等」は「セキュリティおよびID管理」がトップ。
- ・クラウド意識別では、「クラウド意識が高い企業群」は「セキュリティおよびID管理」、「クラウド意識が平均的な企業群」は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ。
- ・情報システム動向別では、「ハイブリッドクラウド基盤検討企業」は「ガバナンスとポリシー管理」、「ハイブリッドクラウド運用企業」は「セキュリティおよびID管理」、「マルチクラウド運用企業」は「ガバナンスとポリシー管理」と「セキュリティおよびID管理」が同率トップ。

	全体(n=379)		業種						クラウド意識						
			1.製造業(n=136)		2.流通業(n=40)		3.金融(n=60)		4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)		1.クラウド意識高(n=143)		2.クラウド意識普通(n=236)		
1位	ガバナンスとポリシー管理	38.3%	ガバナンスとポリシー管理	38.2%	コストの可視化と最適化	47.5%	ガバナンスとポリシー管理	43.3%	セキュリティおよびID管理	39.2%	セキュリティおよびID管理	39.2%	ガバナンスとポリシー管理	38.1%	
2位	セキュリティおよびID管理	38.3%	セキュリティおよびID管理	37.5%	セキュリティおよびID管理	35.0%	セキュリティおよびID管理	40.0%	ガバナンスとポリシー管理	38.5%	ガバナンスとポリシー管理	38.5%	セキュリティおよびID管理	37.7%	
3位	コストの可視化と最適化	30.1%	コストの可視化と最適化	27.2%	ガバナンスとポリシー管理	30.0%	クラウド移行と災害対策	36.7%	コストの可視化と最適化	29.4%	コストの可視化と最適化	29.4%	コストの可視化と最適化	30.5%	
4位	クラウド移行と災害対策	26.1%	クラウド移行と災害対策	26.5%	セキュリティ・リソース最適化	25.0%	コストの可視化と最適化	26.7%	サービス・リクエスト管理	27.3%	サービス・リクエスト管理	27.3%	クラウド移行と災害対策	27.5%	
5位	サービス・リクエスト管理	23.7%	サービス・リクエスト管理	21.3%	サービス・レベル管理	20.0%	サービス・リクエスト管理	25.0%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション	25.9%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション	25.9%	サービス・リクエスト管理	21.6%	
		全体(n=379)		情報システム動向											
		1.本格的に利用を検討中(n=105)		2.ハイブリッドクラウド運用(n=101)		3.マルチクラウド運用(n=173)									
1位	ガバナンスとポリシー管理	38.3%	ガバナンスとポリシー管理	40.0%	セキュリティおよびID管理	39.6%	セキュリティおよびID管理	39.9%	セキュリティおよびID管理	39.9%	※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者、「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計				
2位	セキュリティおよびID管理	38.3%	セキュリティおよびID管理	34.3%	コストの可視化と最適化	38.6%	ガバナンスとポリシー管理	39.9%	ガバナンスとポリシー管理	39.9%					
3位	コストの可視化と最適化	30.1%	サービス・リクエスト管理	28.6%	ガバナンスとポリシー管理	33.7%	コストの可視化と最適化	27.2%	コストの可視化と最適化	27.2%					
4位	クラウド移行と災害対策	26.1%	コストの可視化と最適化	26.7%	クラウド移行と災害対策	25.7%	クラウド移行と災害対策	26.6%	クラウド移行と災害対策	26.6%					
5位	サービス・リクエスト管理	23.7%	クラウド移行と災害対策	25.7%	サービス・リクエスト管理	22.8%	サービス・リクエスト管理	21.4%	サービス・リクエスト管理	21.4%					

未来の基盤を支える。CTCのクラウド

マルチクラウド運用の場合に求められる機能



Q3の調査結果サマリー

- ◆従業員数別では、「1千名未満」の企業と「1千～5千名未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」、「5千名以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ。
- ◆売上高別では、「1000億円未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」がトップ。「1000～5000億円未満」の企業と「5000億円以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ。

- ・従業員数別では、「1千名未満」の企業と「1千～5千名未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」がトップ。次いで「1千名未満」の企業は「クラウド移行と災害対策」、「1千～5千名未満」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」、「5千名以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ、次いで「セキュリティおよびID管理」が続く。
- ・売上高別では、「1000億円未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」がトップ。次いで「コストの可視化と最適化」、「1000～5000億円未満」の企業と「5000億円以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ、次いで「セキュリティおよびID管理」。

	全体(n=379)		従業員数				年商							
			1.1千名未満(n=55)		2.1千～5千名未満(n=115)		3.5千名以上(n=206)		1.1000億円未満(n=97)		2.1000～5000億円未満(n=76)		3.5000億円以上(n=180)	
1位	ガバナンスとポリシー管理	38.3%	セキュリティおよびID管理	43.6%	セキュリティおよびID管理	39.1%	ガバナンスとポリシー管理	41.3%	セキュリティおよびID管理	44.3%	ガバナンスとポリシー管理	35.5%	ガバナンスとポリシー管理	41.1%
2位	セキュリティおよびID管理	38.3%	クラウド移行と災害対策	38.2%	ガバナンスとポリシー管理	36.5%	セキュリティおよびID管理	36.4%	コストの可視化と最適化	33.0%	セキュリティおよびID管理	34.2%	セキュリティおよびID管理	35.0%
3位	コストの可視化と最適化	30.1%	コストの可視化と最適化	32.7%	サービス・リクエスト管理	29.6%	コストの可視化と最適化	30.6%	ガバナンスとポリシー管理	30.9%	サービス・リクエスト管理	28.9%	コストの可視化と最適化	31.7%
4位	クラウド移行と災害対策	26.1%	ガバナンスとポリシー管理	29.1%	コストの可視化と最適化	27.0%	クラウド移行と災害対策	24.8%	サービス・リクエスト管理	29.9%	クラウド移行と災害対策	26.3%	クラウド移行と災害対策	25.6%
5位	サービス・リクエスト管理	23.7%	キャパシティリソース最適化	25.5%	クラウド移行と災害対策	23.5%	サービス・リクエスト管理	20.9%	クラウド移行と災害対策	24.7%	コストの可視化と最適化	23.7%	キャパシティリソース最適化	20.6%

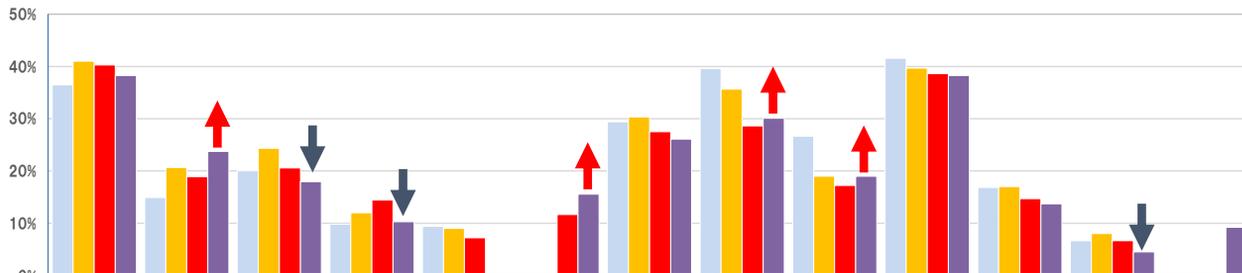
マルチクラウド運用の場合に求められる機能 ※時系列比較



Q3の調査結果サマリー

- ❖2020年8月と比較すると、「サービス・リクエスト管理」が4.9%、「マルチクラウド一元サポート」が3.9%、「キャパシティとリソース最適化」が1.8%、「コストの可視化と最適化」が1.5%の増加。
- ❖一方で、「モニタリング、メータリング」が4.2%、「プロビジョニング、自動化、オーケストレーション」が2.6%、「構成管理の自動化」が2.2%の減少など6項目が減少。
- ❖「セキュリティおよびID管理」と「サービス・レベル管理」は2019年6月以降、「ガバナンスとポリシー管理」、「プロビジョニング、自動化、オーケストレーション」、「クラウド移行と災害対策」は2020年2月以降ダウントレンド。

■ 2019年6月:全体 (n=255) ■ 2020年2月:全体 (n=300) ■ 2020年8月:全体 (n=360) ■ 2021年1月:全体 (n=379)



	ガバナンスとポリシー管理	サービス・リクエスト管理	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション	モニタリング、メータリング	マルチクラウド・プロローカー	マルチクラウド一元サポート	クラウド移行と災害対策	コストの可視化と最適化	キャパシティとリソース最適化	セキュリティおよびID管理	サービス・レベル管理	構成管理の自動化	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化
2019年6月:全体 (n=255)	36.5%	14.9%	20.0%	9.8%	9.4%	11.7%	29.4%	39.6%	26.7%	41.6%	16.9%	6.7%	
2020年2月:全体 (n=300)	41.0%	20.7%	24.3%	12.0%	9.0%	15.6%	30.3%	35.7%	19.0%	39.7%	17.0%	8.0%	
2020年8月:全体 (n=360)	40.3%	18.9%	20.6%	14.4%	7.2%	11.7%	27.5%	28.6%	17.2%	38.6%	14.7%	6.7%	
2021年1月:全体 (n=379)	38.3%	23.7%	17.9%	10.3%	15.6%	15.6%	26.1%	30.1%	19.0%	38.3%	13.7%	4.5%	9.2%
増減 20年2月~8月	-2.0%	4.9%	-2.6%	-4.2%	-	3.9%	-1.4%	1.5%	1.8%	-0.4%	-1.0%	-2.2%	9.2%

「使用するにはまだ課題がある」と最も思われる機能



Q4の調査結果サマリー

- ◆「使用するにはまだ課題がある」と思われる項目があると回答した比率は約89%。
- ◆トップは「セキュリティおよびID管理」。次いで「ガバナンスとポリシー管理」、「コストの可視化と最適化」。
- ◆業種別では、「製造業」は「ガバナンスとポリシー管理」。その他の業種は「セキュリティおよびID管理」。
- ◆クラウド意識の高さに関わらず「セキュリティおよびID管理」がトップ。
- ◆情報システム動向別では、「パブリッククラウド基盤検討企業」は「ガバナンスとポリシー管理」。

- ・「使用するにはまだ課題がある」と思われる項目のトップは「セキュリティおよびID管理」。次いで「ガバナンスとポリシー管理」、「コストの可視化と最適化」と続く。
- ・業種別のトップ項目は、「製造業」は「ガバナンスとポリシー管理」19.9%、「流通業」は「コストの可視化と最適化」と「セキュリティおよびID管理」15.0%、「金融業」は21.7%、「情報処理/ソフトウェア/SI等」は18.2%で「セキュリティおよびID管理」。
- ・クラウド意識別では、「クラウド意識が高い企業」「クラウド意識の平均的な企業」ともに「セキュリティおよびID管理」が最も高い。
- ・情報システム動向別では、「パブリッククラウド基盤検討企業」は「ガバナンスとポリシー管理」15.2%、「ハイブリッドクラウド運用企業」は「セキュリティおよびID管理」17.8%、「マルチクラウド運用企業」は「ガバナンスとポリシー管理」と「セキュリティおよびID管理」が同率19.7%。

	全体(n=379)	業種						クラウド意識			
		1.製造業(n=136)	2.流通業(n=40)	3.金融(n=60)	4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)	1.クラウド意識高(n=143)	2.クラウド意識普通(n=236)				
1位	セキュリティおよびID管理 17.2%	ガバナンスとポリシー管理 19.9%	セキュリティおよびID管理 15.0%	セキュリティおよびID管理 21.7%	セキュリティおよびID管理 18.2%	セキュリティおよびID管理 18.2%	セキュリティおよびID管理 16.5%				
2位	ガバナンスとポリシー管理 15.6%	セキュリティおよびID管理 14.7%	コストの可視化と最適化 15.0%	コストの可視化と最適化 13.3%	ガバナンスとポリシー管理 14.7%	ガバナンスとポリシー管理 14.7%	ガバナンスとポリシー管理 16.1%				
3位	コストの可視化と最適化 11.6%	コストの可視化と最適化 11.0%	ガバナンスとポリシー管理 12.5%	ガバナンスとポリシー管理 10.0%	コストの可視化と最適化 10.5%	コストの可視化と最適化 10.5%	コストの可視化と最適化 12.3%				
4位	クラウド移行と災害対策 8.7%	クラウド移行と災害対策 8.8%	クラウド移行と災害対策 7.5%	クラウド移行と災害対策 10.0%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 9.8%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 9.8%	クラウド移行と災害対策 8.9%				
5位	マルチクラウド一元サポート 6.3%	マルチクラウド一元サポート 8.1%	サービス・リクエスト管理 7.5%	サービス・リクエスト管理 8.3%	クラウド移行と災害対策 8.4%	クラウド移行と災害対策 8.4%	マルチクラウド一元サポート 6.4%				
			キャパシティとリソース最適化 7.5%				サービス・リクエスト管理 6.4%				
		情報システム動向						課題があるとと思う項目がある			
		1.本格的に利用を検討中(n=105)	2.ハイブリッドクラウド運用(n=101)	3.マルチクラウド運用(n=173)							
1位	セキュリティおよびID管理 17.2%	ガバナンスとポリシー管理 15.2%	セキュリティおよびID管理 17.8%	セキュリティおよびID管理 19.7%	全体(n=379)	88.9%	1.クラウド意識高(n=143)	90.2%	1.1千名未満(n=55)	81.8%	
2位	ガバナンスとポリシー管理 15.6%	セキュリティおよびID管理 12.4%	コストの可視化と最適化 12.9%	ガバナンスとポリシー管理 19.7%	1.製造業(n=136)	88.2%	2.クラウド意識普通(n=236)	88.1%	2.1千~5千名未満(n=115)	88.7%	
3位	コストの可視化と最適化 11.6%	コストの可視化と最適化 9.5%	ガバナンスとポリシー管理 8.9%	コストの可視化と最適化 12.1%	2.流通業(n=40)	82.5%	1.本格的に利用を検討中(n=105)	90.5%	3.5千名以上(n=206)	90.8%	
4位	クラウド移行と災害対策 8.7%	サービス・リクエスト管理 9.5%	クラウド移行と災害対策 8.9%	クラウド移行と災害対策 8.7%	3.金融(n=60)	91.7%	2.ハイブリッドクラウド運用(n=173)	83.2%	1.1000億円未満(n=97)	91.8%	
5位	マルチクラウド一元サポート 6.3%	クラウド移行と災害対策 8.6%	サービス・リクエスト管理 6.9%	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化 5.8%	4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)	90.2%	3.マルチクラウド運用(n=173)	91.3%	2.1000~5000億円未満(n=76)	84.2%	
		マルチクラウド一元サポート 8.6%	キャパシティとリソース最適化 6.9%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 5.8%					3.5000億円以上(n=180)	89.4%	

※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者。「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計

「使用するにはまだ課題がある」と最も思われる機能 ※時系列比較



Q4の調査結果サマリー

- ◆従業員数に関わらず「セキュリティおよびID管理」がトップ。
次いで「1千名未満」の企業は「クラウド移行と災害対策」、「1千～5千名未満」「5千名以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」。
- ◆「1000億円未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」、「1000～5000億円未満」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」と「マルチクラウド一元サポート」、「5000億円以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」がトップ。

・従業員数別では、「1千名未満」の企業、「1千～5千名未満」の企業、「5千名以上」の企業ともに「セキュリティおよびID管理」がトップ。次いで「1千名未満」の企業は「クラウド移行と災害対策」、「1千～5千名未満」と「5千名以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」。

・年商別では、「1000億円未満」の企業は「セキュリティおよびID管理」20.6%、「1000～5000億円未満」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」と「マルチクラウド一元サポート」が同率の13.2%、「5000億円以上」の企業は「ガバナンスとポリシー管理」の18.9%がトップ。

	全体(n=379)	従業員数			年商		
		1.1千名未満(n=55)	2.1千～5千名未満(n=115)	3.5千名以上(n=206)	1.1000億円未満(n=97)	2.1000～5000億円未満(n=76)	3.5000億円以上(n=180)
1位	セキュリティおよびID管理 17.2%	セキュリティおよびID管理 16.4%	セキュリティおよびID管理 15.7%	セキュリティおよびID管理 18.4%	セキュリティおよびID管理 20.6%	ガバナンスとポリシー管理 13.2%	ガバナンスとポリシー管理 18.9%
2位	ガバナンスとポリシー管理 15.6%	クラウド移行と災害対策 14.5%	ガバナンスとポリシー管理 13.9%	ガバナンスとポリシー管理 18.0%	コストの可視化と最適化 13.4%	マルチクラウド一元サポート 13.2%	セキュリティおよびID管理 17.8%
3位	コストの可視化と最適化 11.6%	コストの可視化と最適化 12.7%	マルチクラウド一元サポート 11.3%	コストの可視化と最適化 12.6%	ガバナンスとポリシー管理 10.3%	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化 10.5%	コストの可視化と最適化 12.8%
4位	クラウド移行と災害対策 8.7%	ガバナンスとポリシー管理 9.1%	コストの可視化と最適化 9.6%	クラウド移行と災害対策 8.3%	クラウド移行と災害対策 10.3%	セキュリティおよびID管理 9.2%	クラウド移行と災害対策 8.9%
5位	マルチクラウド一元サポート 6.3%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 7.3%	クラウド移行と災害対策 7.0%	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化 6.3%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 9.3%	コストの可視化と最適化 9.2%	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化 5.6%
		キャパシティリソース最適化 7.3%	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション 7.0%	サービス・リクエスト管理 6.3%			サービス・リクエスト管理 5.6%

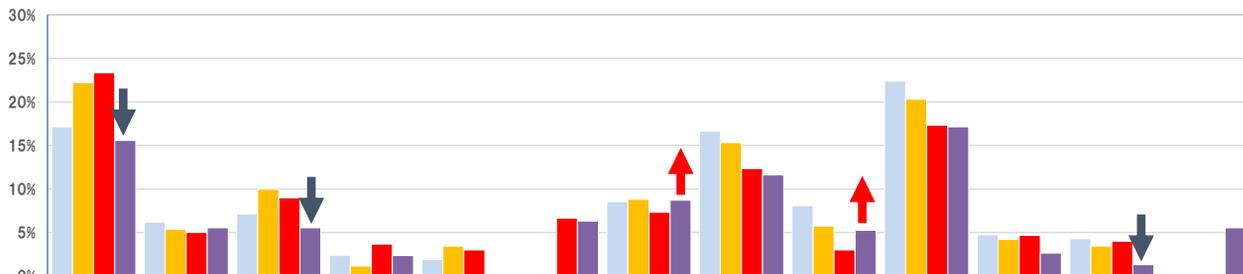
「使用するにはまだ課題がある」と最も思われる機能 ※時系列比較



Q4の調査結果サマリー

- ◆2020年8月と比較すると、「キャパシティとリソース最適化」が2.3%、「クラウド移行と災害対策」が1.4%の増加。
- ◆一方で、「ガバナンスとポリシー管理」が-7.8%、「プロビジョニング、自動化、オーケストレーション」が-3.5%、「構成管理の自動化」が-2.7%など、5項目が1%以上減少。
- ◆「コストの可視化と最適化」と「セキュリティおよびID管理」は2019年6月以降、「プロビジョニング、自動化、オーケストレーション」は2020年2月以降ダウントレンド。

● 2019年6月:全体 (n=210) ● 2020年2月:全体 (n=261) ● 2020年8月:全体 (n=300) ● 2021年1月:全体 (n=337)



	ガバナンスとポリシー管理	サービス・ワークエド管理	プロビジョニング、自動化、オーケストレーション	モニタリング、メータリング	マルチクラウド・プロローカー	マルチクラウド一元サポート	クラウド移行と災害対策	コストの可視化と最適化	キャパシティとリソース最適化	セキュリティおよびID管理	サービス・レベル管理	構成管理の自動化	複数クラウド環境の統合的な管理/可視化
2019年6月:全体 (n=210)	17.1%	6.2%	7.1%	2.4%	1.9%		8.6%	16.7%	8.1%	22.4%	4.8%	4.3%	
2020年2月:全体 (n=261)	22.2%	5.4%	10.0%	1.1%	3.4%		8.8%	15.3%	5.7%	20.3%	4.2%	3.4%	
2020年8月:全体 (n=300)	23.3%	5.0%	9.0%	3.7%	3.0%	6.7%	7.3%	12.3%	3.0%	17.3%	4.7%	4.0%	
2021年1月:全体 (n=337)	15.6%	5.5%	5.5%	2.4%	-	6.3%	8.7%	11.6%	5.3%	17.2%	2.6%	1.3%	5.5%
減 20年2月~8月	-7.8%	0.5%	-3.5%	-1.3%	-	-0.3%	1.4%	-0.7%	2.3%	-0.2%	-2.0%	-2.7%	5.5%

クラウド利用を阻害する要因



Q5の調査結果サマリー

- ◆クラウドの利用を阻害する要因のトップ3は、「セキュリティに不安がある」、「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」、「アプリケーションの改修に対する影響が不透明」。僅差で「クラウド運用のための人材不足」。
- ◆業種別のトップは、「流通業」を除き「セキュリティに不安がある」。「流通業」は「費用対効果に疑問がある」。
- ◆クラウド意識別に関わらず、「セキュリティに不安がある」が最も高い。
- ◆情報システム動向に関わらず、「セキュリティに不安がある」が最も高い。

- ・クラウド利用を阻害する要因は、「セキュリティに不安がある」が最も高く43.3%。次いで「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」32.2%、「アプリケーションの改修に対する影響が不透明」25.9%。僅差で「クラウド運用のための人材不足」25.1%。
- ・業種別では、「流通業」は「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」が45.0%。「セキュリティに不安がある」は「製造業」44.1%、「金融業」50.0%、「情報処理/ソフトウェア/SI等」41.3%でトップ。
- ・クラウド意識別では、「クラウド意識が高い企業」、「クラウド意識の平均的な企業」ともに「セキュリティに不安がある」が最も高い。
- ・情報システム動向別では、「パブリッククラウド基盤検討企業」、「ハイブリッドクラウド運用企業」、「マルチクラウド運用企業」ともに「セキュリティに不安がある」がトップ。

	全体(n=379)		業種						クラウド意識					
			1.製造業(n=136)		2.流通業(n=40)		3.金融(n=60)		4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)		1.クラウド意識高(n=143)		2.クラウド意識普通(n=236)	
1位	セキュリティに不安	43.3%	セキュリティに不安	44.1%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	45.0%	セキュリティに不安	50.0%	セキュリティに不安	41.3%	セキュリティに不安	41.3%	セキュリティに不安	44.5%
2位	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	32.2%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	30.9%	セキュリティに不安	37.5%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	31.7%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	30.1%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	30.1%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.5%
3位	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	25.9%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	28.7%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	30.0%	クラウド運用のための人材不足	31.7%	クラウド運用のための人材不足	24.5%	クラウド運用のための人材不足	24.5%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	26.7%
4位	クラウド運用のための人材不足	25.1%	パフォーマンス・性能の劣化	26.5%	移行の為の負荷が大き	27.5%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	20.0%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	24.5%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	24.5%	クラウド運用のための人材不足	25.4%
5位	移行の為の負荷が大き	21.9%	移行の為の負荷が大き	23.5%	クラウド運用のための人材不足	27.5%	クラウド環境と異なる運用管理/パフォーマンス・性能の劣化	18.3%	移行の為の負荷が大き	23.1%	移行の為の負荷が大き	23.1%	パフォーマンス・性能の劣化	21.6%
	全体(n=379)		情報システム動向											
			1.本格的に利用を検討中(n=105)		2.ハイブリッドクラウド運用(n=101)		3.マルチクラウド運用(n=173)							
1位	セキュリティに不安	43.3%	セキュリティに不安	44.8%	セキュリティに不安	44.6%	セキュリティに不安	41.6%	セキュリティに不安	41.6%	セキュリティに不安	41.6%	セキュリティに不安	41.6%
2位	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	32.2%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	28.6%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	34.7%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.5%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.5%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.5%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.5%
3位	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	25.9%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	27.6%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	22.8%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	26.0%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	26.0%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	26.0%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	26.0%
4位	クラウド運用のための人材不足	25.1%	クラウド運用のための人材不足	25.7%	クラウド運用のための人材不足	22.8%	クラウド運用のための人材不足	26.0%	クラウド運用のための人材不足	26.0%	クラウド運用のための人材不足	26.0%	クラウド運用のための人材不足	26.0%
5位	移行の為の負荷が大き	21.9%	移行の為の負荷が大き	24.8%	移行の為の負荷が大き	21.8%	パフォーマンス・性能の劣化	23.1%	パフォーマンス・性能の劣化	23.1%	パフォーマンス・性能の劣化	23.1%	パフォーマンス・性能の劣化	23.1%

※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者、「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計

クラウド利用を阻害する要因



Q5の調査結果サマリー

◆従業員数別では、「1千名未満」の企業は「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」。「1千～5千名未満」の企業、「5千名以上」の企業は「セキュリティに不安がある」。

◆年商別では、「1000億円未満」の企業は「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」。「1000～5000億円未満」「5000億円以上」の企業は「セキュリティに不安がある」がトップ。

- ・従業員数別では、「1千名未満」の企業は「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」の49.1%。「セキュリティに不安がある」は「1千～5千名未満」の企業で47.0%、「5千名以上」の企業で45.1%でトップ。
- ・年商別では、「1000億円未満」の企業は「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」の40.2%。「セキュリティに不安がある」は、「1000～5000億円未満」の企業で39.5%、「5000億円以上」の企業で46.1%とトップ。

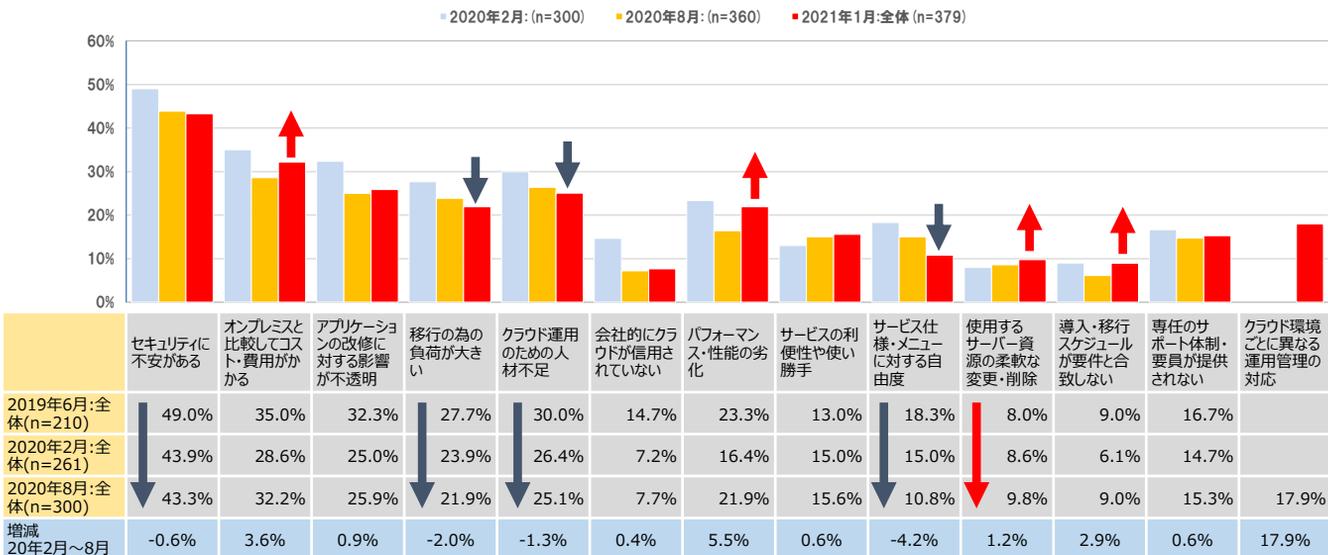
	全体(n=379)		従業員数						年商					
			1.1千名未満(n=55)		2.1千～5千名未満(n=115)		3.5千名以上(n=206)		1.1000億円未満(n=97)		2.1000～5000億円未満(n=76)		3.5000億円以上(n=180)	
1位	セキュリティに不安	43.3%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	49.1%	セキュリティに不安がある	47.0%	セキュリティに不安がある	45.1%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	40.2%	セキュリティに不安がある	39.5%	セキュリティに不安がある	46.1%
2位	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	32.2%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	40.0%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	33.0%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	26.7%	セキュリティに不安がある	39.2%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	28.9%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	30.6%
3位	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	25.9%	セキュリティに不安がある	29.1%	クラウド運用のための人材不足	27.0%	クラウド運用のための人材不足 / アプリケーションの改修に対する影響が不透明 / パフォーマンス・性能の劣化 / 移行の為の負荷が大きい	23.8%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	29.9%	オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる	27.6%	クラウド運用のための人材不足	26.7%
4位	クラウド運用のための人材不足	25.1%	クラウド運用のための人材不足	23.6%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	21.7%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明 / パフォーマンス・性能の劣化 / 移行の為の負荷が大きい	23.8%	クラウド運用のための人材不足	23.7%	クラウド運用のための人材不足	25.0%	アプリケーションの改修に対する影響が不透明	23.9%
5位	移行の為の負荷が大きい / パフォーマンス・性能の劣化	21.9%	移行の為の負荷が大きい	21.8%	パフォーマンス・性能の劣化	20.9%	移行の為の負荷が大きい	20.6%	移行の為の負荷が大きい	20.6%	移行の為の負荷が大きい / パフォーマンス・性能の劣化	23.7%	移行の為の負荷が大きい	23.3%

クラウド利用を阻害する要因 ※2020年2月調査との比較



Q5の調査結果サマリー

- ※2020年8月と比較すると、「パフォーマンス・性能の劣化」が+5.5%、「オンプレミスと比較してコスト・費用がかかる」が+3.6%、「導入・移行スケジュールが要件と合致しない」が+2.9%、「使用するサーバー資源の柔軟な変更・削除」が+1.2%。
- ※一方で、「サービス仕様・メニューに対する自由度」が-4.2%、「移行の為の負荷が大きい」が-2.0%、「クラウド運用のための人材不足」が-1.3%。
- ※「セキュリティに不安がある」、「移行の為の負荷が大きい」、「クラウド運用のための人材不足」、「サービス仕様・メニューに対する自由度」は2019年6月以降ダウントレンド。「使用するサーバー資源の柔軟な変更・削除」はアップトレンド。



クラウド基盤の利用に関する相談における、 情報システム部門の課題



Q6の調査結果サマリー

- ◆情報システム部門の課題では、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高く約4割を占める。
- ◆業種別では、「流通業」が「社内他部署のクラウド利用コストの管理が困難である」。その他の業種は「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」。
- ◆クラウド意識別、情報システム動向別に関わらず、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高い。

- ・情報システム部門の課題で優先度の高い項目は、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高く38.0%。次いで「既存システムとクラウド基盤の連携のため、既存システムの改修を求められる」、「社内他部署のクラウド利用コストの管理が困難である」、「情報システム部門がクラウド人員不足で対応しきれない」。
- ・業種別では、「流通業」を除き「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高い。「流通業」のトップは「社内他部署のクラウド利用コストの管理が困難である」。
- ・クラウド意識別に関わらず、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高い。
- ・情報システム動向別に関わらず、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」が最も高い。

	全体(n=379)	業種						クラウド意識			
		1.製造業(n=136)		2.流通業(n=40)		3.金融(n=60)		4.情報処理/ソフトウェア/SI等(n=143)		1.クラウド意識高(n=143)	
1位	ルールの徹底ができない 38.0%	ルールの徹底ができない 39.7%	既存システムの改修を求められる 32.5%	ルールの徹底ができない 45.0%	ルールの徹底ができない 35.7%	ルールの徹底ができない 35.7%	ルールの徹底ができない 35.7%	ルールの徹底ができない 39.4%			
2位	既存システムの改修を求められる 28.5%	既存システムの改修を求められる 28.7%	クラウド利用コストの管理が困難 32.5%	クラウド利用コストの管理が困難 28.3%	既存システムの改修を求められる 30.1%	既存システムの改修を求められる 30.1%	既存システムの改修を求められる 27.5%				
3位	クラウド利用コストの管理が困難 23.7%	スキル不足で対応しきれない 23.5%	ルールの徹底ができない 30.0%	人員不足で対応しきれない 28.3%	役割分担が明確でない 25.2%	役割分担が明確でない 25.2%	クラウド利用コストの管理が困難 25.8%				
4位	人員不足で対応しきれない 23.7%	クラウド利用コストの管理が困難 22.8%	人員不足で対応しきれない 30.0%	スキル不足で対応しきれない 28.3%	人員不足で対応しきれない 21.0%	人員不足で対応しきれない 21.0%	人員不足で対応しきれない 25.4%				
5位	役割分担が明確でない 23.0%	人員不足で対応しきれない/役割分担が明確でない 22.8%	スキル不足で対応しきれない/役割分担が明確でない 20.0%	既存システムの改修を求められる 21.7%	コストの予算感が合わない 21.0%	コストの予算感が合わない 21.0%	スキル不足で対応しきれない 24.2%				
	全体(n=379)	情報システム動向									
		1.本格的に利用を検討中(n=105)		2.ハイブリッドクラウド運用(n=101)		3.マルチクラウド運用(n=173)					
1位	ルールの徹底ができない 38.0%	ルールの徹底ができない 43.8%	ルールの徹底ができない 34.7%	ルールの徹底ができない 36.4%							
2位	既存システムの改修を求められる 28.5%	既存システムの改修を求められる 27.6%	既存システムの改修を求められる 33.7%	人員不足で対応しきれない 26.6%							
3位	クラウド利用コストの管理が困難 23.7%	役割分担が明確でない 24.8%	役割分担が明確でない 23.8%	既存システムの改修を求められる 26.0%							
4位	人員不足で対応しきれない 23.7%	クラウド利用コストの管理が困難 21.9%	クラウド利用コストの管理が困難 23.8%	スキル不足で対応しきれない 25.4%							
5位	役割分担が明確でない 23.0%	人員不足で対応しきれない/スキル不足で対応しきれない 21.9%	人員不足で対応しきれない 20.8%	クラウド利用コストの管理が困難 24.9%							

※クラウド意識…「クラウド意識高」は「情報処理サービス/ソフトウェア開発/SI/コンサルティング」にお勤めの回答者、「クラウド意識平均」は「クラウド意識高」の会社以外の会社にお勤めの回答者合計

クラウド基盤の利用に関する相談における、 情報システム部門の課題



Q6の調査結果サマリー

- ◆従業員数別に関わらず、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」がトップ。
- ◆年商別に関わらず、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」がトップ。

- ・従業員数別では、「1千名未満」の企業、「1千～5千名未満」の企業、「5千名以上」の企業ともに、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」がトップ。次いで「1千名未満」の企業は「役割分担が明確でない」、「1千～5千名未満」の企業と「5千名以上」の企業は「既存システムの改修を求められる」と続く。
- ・年商別では、「1000億円未満」の企業、「1000～5000億円未満」の企業、「5000億円以上」の企業ともに、「社内の情報セキュリティやガバナンスのルールの徹底ができない」がトップ。次いで、「1000億円未満」の企業は「スキル不足で対応しきれない」、「1000～5000億円未満」の企業、「5000億円以上」の企業は「既存システムの改修を求められる」。

	全体(n=379)		従業員数				年商							
			1.1千名未満(n=55)		2.1千～5千名未満(n=115)		3.5千名以上(n=206)		1.1000億円未満(n=97)		2.1000～5000億円未満(n=76)		3.5000億円以上(n=180)	
1位	ルールの徹底ができない	38.0%	ルールの徹底ができない	29.1%	ルールの徹底ができない	44.3%	ルールの徹底ができない	36.9%	ルールの徹底ができない	38.1%	ルールの徹底ができない	42.1%	ルールの徹底ができない	37.2%
2位	既存システムの改修を求められる	28.5%	役割分担が明確でない	27.3%	既存システムの改修を求められる	29.6%	既存システムの改修を求められる	28.2%	スキル不足で対応しきれない	26.8%	既存システムの改修を求められる	31.6%	既存システムの改修を求められる	30.6%
3位	クラウド利用コストの管理が困難	23.7%	既存システムの改修を求められる	25.5%	スキル不足で対応しきれない	26.1%	人員不足で対応しきれない/クラウド利用コストの管理が困難	25.2%	クラウド利用コストの管理が困難である	25.8%	クラウド利用コストの管理が困難である	26.3%	人員不足で対応しきれない	24.4%
4位	人員不足で対応しきれない	23.7%	スキル不足で対応しきれない	25.5%	人員不足で対応しきれない	21.7%			役割分担が明確でない	25.8%	人員不足で対応しきれない	22.4%	クラウド利用コストの管理が困難である	23.9%
5位	役割分担が明確でない	23.0%	人員不足で対応しきれない	23.6%	クラウド利用コストの管理が困難である	20.9%	役割分担が明確でない	23.3%	既存システムの改修を求められる	23.7%	スキル不足で対応しきれない/クラウド特有の制約を理解していない	21.1%	役割分担が明確でない	22.8%

本意識調査は引き続き**定点観測**を実施し、
結果を**ビジネスonIT**にて発信いたします



<https://www.business-on-it.com/>



business-on-it.com

ビジネスonIT

検索 メルマガ登録 資料一覧 お問い合わせ

イベント&セミナー お客様事例 製品&サービス 知る × 学ぶ お役立ち資料

ビジネスを加速するための
革新的なIT戦略やヒントが欲しい

CTCが
お悩みを抱えられている方と共に

ITによる**変革を共創**します

DATA BUSINESS
AVAILABILITY
IT PERFORMANCE
SECURITY COMPLIANCE
MANAGEMENT
MOBILITY
SERVICES

1万台のクライアント端末と
サーバのセキュリティを強化

EDRによる脅威の早期発見と被害の抑制策の効果とは?!



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
ITサービス企画統括部 マーケティング課
ビジネスonIT事務局
e-mail : business-on-it@ctc-g.co.jp



未来の基盤も支える。 CTCのクラウド

免責事項

本資料は、その内容、機能等について細心の注意を払っておりますが、内容が正確であるかどうか、最新のものであるかどうか、安全なものであるか等について保証をするものではなく、何らの責任を負うものではありません。本資料に掲載した情報の訂正、修正、追加、中断、削除等をいつでも行うことができるものとします。また、本資料のご利用により、万一、ご利用者様に何らかの不都合や損害が発生したとしても、何らの責任を負うものではありません。